

ゼニタナゴ、ドブガイ、トウヨシノボリの微妙な関係

ゼニタナゴは、ドブガイのような二枚貝の中に産卵するという特殊な生態をもっています。秋にメスは長い産卵管を伸ばし、貝の中に卵を産みます。卵は、貝の中で孵化し、成長して翌年の春に貝から出てきます。またドブガイは、雌貝の中で受精卵は、幼生（グロキディウムという）となり、ヨシノボリなどのエラやヒレにくっつき成長し、稚貝になると水底に落ちて自由生活に入ります。

このように、三者は、生活環を形成する過程でなくてはならない関係を築いています。 どれか一者でも減少すると他の二者に多大な影響を与えることとなります。

地元小学生と地引網



▲調査の様子から

10月9日には、地元の浜田小学校の児童、父兄、先生方17名に協力していただき、地引き網を用いた調査を行いました。これは、すばらしい自然環境を実際の調査を体験してもらい感じてもらうという試みでした。

地引き網は大漁で、児童たちは目を輝かせながら、網の中をのぞき込んでいました。

また、専門家の方から、塩曳潟の珍しい魚たちの生態を楽しく学びました。

最後に

調査を実施して、塩曳潟に生息する生物たちの密接なつながりを目の当たりにして、改めて自然の微妙なバランスに驚かされました。それと同時に、そのつながりを担う一つの生物が絶滅の危機に瀕しているということは、その生息環境がバランスをくずしつつあることでもあると、強く感じました。

個々の絶滅危惧種のみを保護してもその種を救うことは出来ません。その生息環境全体を保全することが、その種を救う手助けとなるのです。

動物園は、地球上の希少な動物の「種」の絶滅を防ぐ、種の保存事業を担っています。大森山動物園は、今回の調査のような地域に密着し、より具体的な活動を通して、自然環境保護の精神を地域住民の方に伝えていきます。

野生動物保護募金 “ペンギン募金”

社日本動物園水族館協会は動物の展示にとどまらず、野生動物の保護活動に寄与するため、様々な活動を展開していますが、その活動を支えるための野生動物保護募金を実施しています。今回の調査はその助成を受け行われたものです。目印はペンギン型の募金箱です。



▲塩曳潟全景

※レッドデータブックって何？

レッドという言葉からは、例えばレッドカードやレッドゾーンなどのように、危険な、危機的なというイメージを連想しますが、まさに種の存続が危機的な状況にある野生動物をリスト化し、生息状況などをとりまとめたものをレッドデータブックといいます。

ゼニタナゴ、シナイモツゴは、レッドリストの中で絶滅危惧種ⅠB類（近い将来における絶滅の危険性が高い種）に分類されています。また、秋田県版レッドデータブック2002年によれば、秋田県内ではいずれもⅠA類（ごく近い将来絶滅の危険性が高い種）に分類されています。